

誇り高き消防人その勇姿力強く

つがる市消防団出初め式



息の合った分列行進を披露



感謝状を受け取る前稲垣地区本部副団長の佐藤公雄さん



無火災を祈願する箱田消防団長

つがる市内の火災発生件数

年	建物	林野	車両	その他	計
平成25	15	2	4	1	22
平成26	8	5	1	4	18
平成27	18	3	2	3	26
平成28	6	2	3	6	17
平成29	10	2	4	8	24



福島市長らによる服装点検を受ける消防団員

新春の恒例行事「つがる市消防団出初め式」が1月7日、市役所周辺で開催され、消防団員らが防災意識の高揚を図りました。

式に先立ち、福島市長と箱田雄消防団長ら消防団幹部が、三新田神社で今年一年の無火災を祈願。出初め式には、56分団から約980人の消防団員と約80台の消防車両が参加。時折激しい風雪が舞う中、観閲者の福島市長らによる服装点検を受けた団員らは、ラッパ隊の演奏に合わせて息の合った分列行進や車両行進を披露しました。

引き続き、松の館で式典が行われ、福島市長が「消防団員の皆さまには、それぞれに職業を持ちながらも、いざ有事の際には身をていした消防活動で市民の厚い信頼に応えていることに、心から敬意と感謝の意を表します」と式辞。続いて箱田消防団長が「普段から最善の準備をすることが重要。機械器具の点検整備の徹底、広報活動による予防消防の継続など、積極的に業務に精励することを切望します」と訓示を述べました。また、日頃の火災予防活動のほか農作物の夜間パトロールを自発的に行った森田第4分団に団長表彰、勤続30年以上の勇退団員に福島市長から感謝状が贈呈されました。

新年の門出を祝う 平成30年新年祝賀会



年頭のあいさつを述べる福島市長



童謡「蕾の会」の合唱

1月4日、松の館で「つがる市新年祝賀会」が開催され、市民ら約220人が新春の門出を祝いました。

祝賀会は、童謡「蕾の会」によるつがる市民の歌で晴れやかにスタート。福島市長は年頭のあいさつで「地域経済の要である農業を取り巻く環境が厳しさを増す中、離農を防ぎ農村集落を維持していくためにも、関係機関と連携しながら取り組んでまいります。つがる市の豊かな自然や文化・歴史を守り、次世代に繋げるまちづくりに向け全力で取り組みます」と述べました。

また、多くの来賓も出席し、代表して木村次郎衆議院議員と三橋一三県議会議員が祝辞。宮本純一商工会長の発声で乾杯し、出席者は新年のあいさつを交わしていました。



福島市長らへ堂々と提案する2年生

1月17日、木造高校（石澤徳成校長）の生徒が、福島市長らに市の農業振興や観光の推進に向けたプレゼンテーションを行いました。

同校流通ビジネス系列では、地域の魅力を創出できる人材育成を目指した授業を展開しており、その一環で、市の課題とその解決策の研究を進めてきました。

この日は、福島市長や市の関係職員、NPO法人つがる縄文の会会員らを学校に招き、2つの提案を発表しました。2年生5人による「羽ばたけ世界へ！つがるブランドメロンの海外進出を目指して」では、つがるブランドメロンのマレーシア市場への販路拡大へ向けた研究を発表。生産者やJAへの取材と現地でのアンケート調査などを分析し、海外への販路拡大が期待できるとした上で、メロンにブランド名を付けるなどのブランド力強化、輸送のための貯蔵方法などを提案しました。3年生6人による「つがる市の縄文遺跡を世界遺産へ」では、市の縄文遺跡を観光の分野で活用する案を提言。自分たちが企画・案内した「駅からハイキング」の経験やアンケートを分析し、世界文化遺産登録への関心に加え高校生の視点でPRすることで集客力を高められるとした上で、交通の便を改善するための電動自

転車・マウンテンバイクの貸し出し、ガイドなしでも観光を楽しめるスタンプラリーなどの実施を提案しました。

福島市長は「どちらも興味深い提案。将来を担う皆さんには、今後も積極的にまちづくりに参画し、市の魅力を高めてほしいと思います」と講評しました。



担当職員らの意見を熱心に聞く3年生

つがる市の発展に貢献したい 木造高生が市長へプレゼンテーション